岩手日報
H23年9月20日付
※この記事・写真は
岩手日報社の許諾を
得て転載しています。

花を通じた被災地への支援状況を発表する参加者

花で復興支援継続へ

盛岡で交流会 15団体が活動発表

希望の花いわて3・11（吉川三枝子代表）主催の花と緑の復興支援交流会は15日、盛岡市中ノ橋通1丁目のプラザおでってで約50人が参加して開かれた。県内外のガーデニングボランティアなど15団体が被災地への支援活動を発表し、花の力で復興に貢献していくことを確認した。

南相馬ひまわり大作戦（福島県）の八津尾初夫さんは「全国の人々の協力で震災100日目の6月18日に、7㌶にわたってヒマワリの種を植えた」と紹介。

「当日は、津波と原発事故に見舞われた地域に活気が生まれた。仮設住宅で園芸教室を開くと、知らない人同士が仲良くなるきっかけとなった。花の力の大きさを再認識した」と強調した。

遠野まごころネット（遠野市）の伊勢崎克彦さんは「花の種を集めて被災地を緑にする活動をまず思い付いたが、植える場所も土もなくなっていた」と振り返り、「仮設住宅に花と一緒にプランターと土を贈っている。新たなコミュニティーづくりに役立つ支援をしていきたい」と意欲を語った。

陸前高田フラワーロード（陸前高田市）の鈴木勝井さんは「花は悲しみにくれる人の心を癒やしてくれる。震災を乗り越えようと多くの人々が心を寄せてくれている。とてもありがたい」と支援に感謝した。